

令和4年度生徒指導サポート実践校 「特別活動の取組事例」

学校名	廿日市市立阿品台西小学校	校長	池田 賀子	生徒指導主事	大久保 真人
-----	--------------	----	-------	--------	--------

取組事例名	『靴そろえ週間』
-------	----------

取組における育てたい資質・能力					
-----------------	--	--	--	--	--

人間関係形成		社会参画		自己実現	
「自己有用感」	3	「課題発見・解決力」	1	「思考力・判断力・表現力」	2

取組のねらい

児童が自ら判断し、行動し、その結果に責任を持つという「自己指導能力の育成」をめざす。

取組の具体的内容	取組の創意工夫 『児童が主体の取組』
----------	-----------------------

<ul style="list-style-type: none"> ・4月、6年生のある学級から、「阿品台西小学校を自分達の手でよくしたい」という思いが担任に伝えられ、自分達に何ができるか学級会で話し合った。その結果、「児童玄関の靴がそろっていないので靴をそろえるように学校全体に呼びかけたい」と意見がまとまった。 ・担任から生徒指導主事に学級会で話し合った内容が伝えられ、生徒指導部で話し合った結果、児童会（運営委員会）が中心となって「靴そろえ週間」を実施することになった。 ・運営委員会において、6年生児童から「靴そろえ週間」が提案された。委員会で取組内容等が話し合われた。毎月1週間靴そろえ週間を設け、その結果を放送で学校全体に伝えることになり、6月から取組が始まった。 ・現在まで6月、7月、9月、10月、11月、12月、1月の7回取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童自らが学校をよくしたいという思いが担任に伝えられ、担任が児童を支援しながら話し合い、自分達の考えをまとめさせた。 ・児童会（運営委員会）の自主的な活動として位置づけ、児童が主体となって取り組むことができるように仕向けた。 ・運営委員会が取り組む前と結果について放送で伝え、学校全体の関心を高めた。 ・毎月1週間、運営委員会の児童が、全ての児童の靴を確認し、その結果を集計した。地道な活動であったが、児童が取組の大切さを自覚し主体的に取り組んだ。
---	--

取組の成果と課題

・現在までの「靴そろえ週間」の学校全体の達成率を以下に示す。

月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月
達成率	69.5%	74.0%	77.2%	85.4%	81.4%	90.7%	89.8%

- ・運営委員会による毎月の取組が児童に浸透し、各担任が児童に働きかけるなどして、徐々に学校全体の達成率が増えていった。
- ・「靴そろえ週間」でない時でも、多くの児童が日常的に靴をそろえることができるようになった。
- ・自分たちが提案した「靴そろえ週間」によって学校を変えることができたことが、6年生児童の貴重な体験となり、自己有用感を育成につながった。